慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アメリカ詩人エミリ・ディキンスンの受容史
Sub Title	Emily Dickinson's reception history
Author	朝比奈, 緑(Asahina, Midori)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2022
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	『エミリ・ディキンスン 詩集（ミラー版）ー芸術家を魅了した50篇』（下村伸子、武田雅子との共著）（小鳥遊書房、２０２１年）において、音楽、アート、絵本、映画、舞踏、詩と小説、エッセイなどのジャンルにおいて、ディキンスン の詩に影響を受けて創作をした芸術家たちをを取り上げた。筆者が分担として論じた芸術家は以下の通りである、音楽においては、アーロン・コープランド、武満徹。絵本においては、エリザベス・スパイアーズと長田弘。舞踏においてはマーサ・グラハム。詩と小説などについては、リチャード・ブローディガン、ウィリアム・スタイロン、マルグリッド・デュラス、吉増剛造、日野啓三、ウィリアム・ハウエルズ、リチャード・ウィルバー、アドリアンヌ・リッチ、辻邦生、アダム・ゴプニック、ロバート・フロスト、ダニエル・キイスである。また本書の前書きや全体の編集も担当した。詩のテキストとして、Emily Dickinson's Poems: As she Preserved Them, edited by Cristanne Miller (Harvard UP, 2016)を用いた本邦初の翻訳を収めている。詩人の草稿の状態を紹介し、詩の解釈については、ミラー版の注釈を紹介、また詩人が使用していた辞書ノア・ウェブスターの英語辞典への言及を取り入れ、当時の歴史的・社会的背景を丁寧に説明している。 また論文「エミリ・ディキンスン に魅せられて一武満徹晩年の５曲」では、作曲家武満徹がディキンスン の詩にどのように感応したのか、特に晩年のエッセイにおける言葉から探ってみた。また武満と交流があった詩人吉増剛造について、どのようにディキンスン の詩を受容し、自らの作品に取り入れているのかを、英文論文"Dickinson's Reception in Japan"(Oxford UP)において論じた。この論文では、日本における翻訳の歴史も概観している。特に翻訳のトーンに注目し、詩人高見順や小池昌代の翻訳を分析している。 Looking Back on the Reception History of Dickinson in Japan First, we look back on the translation history with a special attention to the significance of tone. David and Mabel Todd's scroll written in Esashi, Hokkaido in , the Poet Jun Takami's elegant juxtaposition of Dickinson's poetry with modern art in the magazine Lady's Graphics in the 1950s, and the poet Masayo Koike's recent translation reflecting on Japanese classic literature are brought into focus. Second, we witness two influential artists' response. One is Toru Takemitsu, who composed five music pieces inspired by her poems, and the other is the contemporary poet Gozo Yoshimasu, who referred to her poems in his experimental writings. Third, we report our unique way of appreciation through koh-do (incense ceremony). Thus, by continuously stimulating our sense of sight, sound, and smell, Dickinson's poetry shows its transcultural power in Japan.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2021 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

2022 年 3 月 15 日

研究代表者	所属	商学部	職名	教授	補助額	300 （A） 千円
	氏名	朝比奈 緑	氏名（英語）	Midori Asahina		

研究課題（日本語）

アメリカ詩人エミリ・ディキンスンの受容史

研究課題（英訳）

Emily Dickinson's Reception History

１．研究成果実績の概要

『エミリ・ディキンスン 詩集（ミラー版）一芸術家を魅了した 50 篇』（下村伸子、武田雅子との共著）（小鳥遊書房、2021年）において、音楽、アート、絵本、映画、舞踏、詩と小説、エッセイなどのジャンルにおいて、ディキンスン の詩に影響を受けて創作をした芸術家たちをを取り上げた。筆者が分担として論じた芸術家は以下の通りである、音楽においては、アーロン・コープランド、武満徹。絵本においては、エリザベス・スパイアーズと長田弘。舞踏においてはマーサ・グラハム。詩と小説などについては、リチャード・ブローディガン、ウィリアム・スタイロン、マルグリッド・デュラス、吉増剛造、日野啓三、ウィリアム・ハウエルズ、リチャード・ウィルバー、アドリアンヌ・リッチ、辻邦生、アダム・ゴプニック、ロバート・フロスト、ダニエル・キイスである。また本書の前書きや全体の編集も担当した。詩のテキストとして、Emily Dickinson's Poems: As she Preserved Them, edited by Cristanne Miller (Harvard UP, 2016)を用いた本邦初の翻訳を収めている。詩人の草稿の状態を紹介し、詩の解釈については、ミラー版の注釈を紹介、また詩人が使用していた辞書ノア・ウェブスターの英語辞典への言及を取り入れ、当時の歴史的・社会的背景を丁寧に説明している。
また論文「エミリ・ディキンスン に魅せられて一武満徹晩年の5曲」では、作曲家武満徹がディキンスン の詩にどのように感応したのか、特に晩年のエッセイにおける言葉から探ってみた。また武満と交流があった詩人吉増剛造について、どのようにディキンスン の詩を受容し、自らの作品に取り入れているのかを、英文論文"Dickinson's Reception in Japan"(Oxford UP)において論じた。この論文では、日本における翻訳の歴史も概観している。特に翻訳のトーンに注目し、詩人高見順や小池昌代の翻訳を分析している。

２．研究成果実績の概要（英訳）

Looking Back on the Reception History of Dickinson in Japan

First, we look back on the translation history with a special attention to the significance of tone. David and Mabel Todd's scroll written in Esashi, Hokkaido in , the Poet Jun Takami's elegant juxtaposition of Dickinson's poetry with modern art in the magazine Lady's Graphics in the 1950s, and the poet Masayo Koike's recent translation reflecting on Japanese classic literature are brought into focus.
Second, we witness two influential artists' response. One is Toru Takemitsu, who composed five music pieces inspired by her poems, and the other is the contemporary poet Gozo Yoshimasu, who referred to her poems in his experimental writings.
Third, we report our unique way of appreciation through koh-do (incense ceremony).
Thus, by continuously stimulating our sense of sight, sound, and smell, Dickinson's poetry shows its transcultural power in Japan.

Key Words
Translation history in Japan, Mabel Todd, Jun Takami, Masayo Koike, Toru Takemitsu, Gozo Yoshimasu, Incense ceremony

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
朝比奈緑	『エミリ・ディキンスン 詩集（ミラー版）一芸術家を魅了した 50 篇』	小鳥遊書房	202 1年
朝比奈緑	Dickinson's Reception in Japan	Oxford UP	2022 年
朝比奈緑	「エミリ・ディキンスン に魅せられて一武満徹晩年の5曲」	藝文研究	2021 年